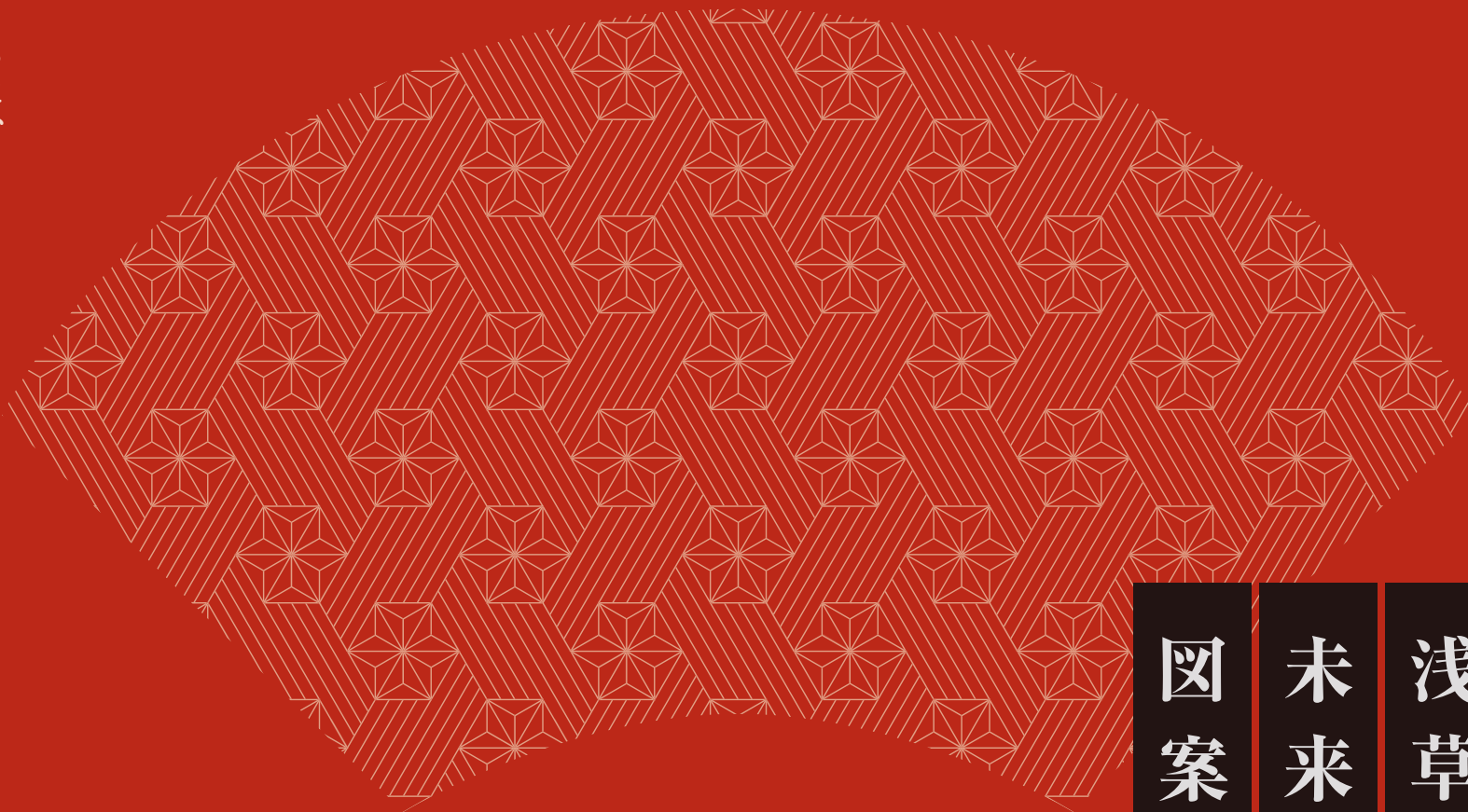


歴史のまちに、
再び新しさを取り入れよう。



図案

未来

浅草

まちづくりビジョン



表紙の紙の裏がきます

浅草は、まちの人々とつくり上げてきたまちです。

人の心を惹きつける活気のある場をつくること、

暮らしや営みを大切にすることを

いつも心に置いて、丁寧につくり上げてきました。

これからの浅草においても、それは同じ。

変わらず、まちの人々とともに未来を描きます。

目次

I

はじめに

Q. 歴史があるまち浅草は、 ^{ふる} 旧いのか。	P05-06
浅草まちづくりビジョン	P07-08
ビジョンコンセプトストーリー	P09-10
まちづくりのコンセプト	P11
コンセプトの実現に向け大切にしたいポイント	P12-13

II

実現に向けた取り組み

まちづくりのコンセプトに基づくアプローチ	P16
■ 快適性を磨き上げるーアプローチ1～3	P17-18
■ 人・まちを結わえるーアプローチ4～6	P19-20
■ 文化を際立たせるーアプローチ7～9	P21-22

III

戦略的まちづくりプログラム

戦略的まちづくりプログラムの設定箇所	P26
① 人中心の空間の創出プログラム	P27-28
② 新たな回遊拠点の創出プログラム	P29-30
③ 歴史を紡ぐ軸の創出プログラム	P31-32
④ 賑わいの拠点の発展プログラム	P33-34
まちづくりの「アイデア」	P35-36
浅草地区まちづくりビジョン策定委員会 委員名簿(敬称略)	P37-38

浅草未来図案とは

浅草未来図案(以下、「本図案」という。)は、

浅草の多彩な資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていくために、

概ね20年後のまちの姿や、その実現に向けた

短期・中長期的な取り組みを示す「道しるべ」となるものです。

浅草のまちづくりは、平成19年6月の「浅草地域まちづくり総合ビジョン」策定以降、

東京スカイツリーの開業や外国人を含む観光客の増加など、取り巻く環境が大きく変化しています。

そこで本図案では、住む人や商いをする人の生活様式や、

訪れる人が求めるニーズが多様化した時代における、これからのまちづくりの方向性を伝えます。

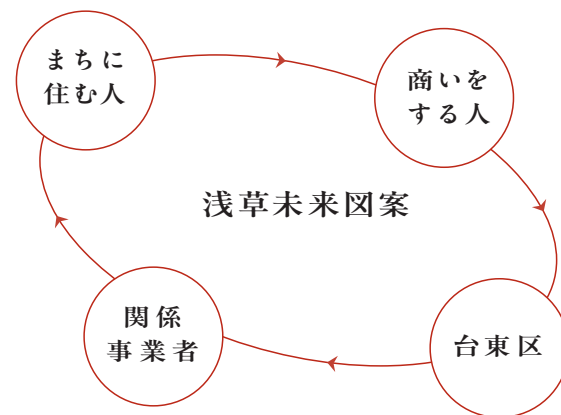
本図案で対象とする浅草は、

まちの中心部とその周辺地域を含むエリアとします。

本図案の取り組みは、台東区だけでなく、

まちに住む人、商いをする人、関係事業者の皆様と共に

取り組んでいく内容を位置づけます。



浅草について

浅草は、創建1400年を迎える浅草寺の門前町として発展してきました。江戸時代になると、浅草は江戸市街地に吸収され、参詣・行楽・歓楽を目的とした人々があふれる江戸有数の盛り場となり、大正時代には、六区興行街を中心に娯楽文化の発信拠点となりました。1923年の関東大震災により、当時の浅草区では約7割の家屋が焼失したとされていますが、帝都復興計画の土地区画整理事業の中で現在とほぼ同じ街路が形成され、隅田公園などの都市基盤の骨格が整備されました。

その後、戦災復興を経て、1960年頃までは一大歓楽街として盛大な活気を見せましたが、1964年の東京オリンピック後にカラーテレビが普及すると娯楽が多様化し、映画人気が下火になるとともに、六区興行街の勢いも失われました。苦しい衰退期を乗り越えながら、地域が主体となり、サンバカーニバル等による継続的なまちおこしが推進され、ROXやビューホテルの進出、つくばエクスプレスの開通、地区計画による六区興行街の再生等により、外国人観光客をはじめ多くの人を訪れるまちとなりました。

また、現在の浅草は、多方面から鉄道が乗り入れているだけでなく、羽田空港・成田空港といった国際玄関口からのアクセス性も高いことから、どこからでもどこにでも行きやすい場所となっています。



浅草の広域的な位置関係
(地理院地図/GSI Maps(国土地理院)の航空写真を加工し作成)